

## 動向集の調査項目について各グループから出された意見と方向性

No.	調査項目	意見	グループ	方向性
1	会議開催方法、会議開催時間	コロナ後の形が一定程度固まったものと考えられ、継続して問う意味は薄い。 ←当事者グループからは、オンライン活用の設問はあったほうがよいとの意見がある。	協議会 (※1)	調査項目としては継続しない。参加方法のことはICT化の項目で選択肢に入れる。
2	個別の困難事例の把握・検討方法	本会議で個別事例を取り上げることは難しく、東京都が本会議でやることを促進しているとミスリードされないようにする必要がある。	協議会	全国ブロック会議の内容も踏まえ、協議会活性化の項目で整理する。設問も把握方法より相談支援部会等で個別事例を取り上げているかという切り口にする。
3	ICTの活用	昨年度の回答をもとに選択肢を設け、選択肢とその他自由記載という設問にする。	協議会	意見のとおり選択肢を作成する。その際、No.1の意見を踏まえ、選択肢にオンライン活用を入れる。
4	基幹相談支援センターの一覧	利用するものであり、昨年度新規に設けた調査事項も継続する。	協議会	協議会・拠点等との連携についての設問を含め、継続する。
5	当事者委員障害等種別ごとの人数	どう推移したかを見たいので継続する。	当事者 (※2)	継続する。
6	(当事者の参画状況) 取組にあたって苦労したこと	当事者参加にあたっては苦労がないわけがなく、むしろこういうことをやってうまくいったという好事例を挙げてもらいたい。	当事者	他設問「取り組んでいること・工夫」、「当事者委員が参画する意義」とあわせて整理する。
7	新たな当事者委員の選任、育てる取組	地域の声を吸い上げて的確な意見を述べられる委員を見つけることは難しくメンバーが固定化しやすいなど課題が多い。実情や取組を知りたい。	当事者	一覧に当事者委員の経験年数を入れる。育てる取組は他設問とあわせて整理する。
8	当事者部会の設置、当事者参画の規定	当事者部会等があると知的障害のある方も話しやすい。また当事者参画の規定が本会議・部会等にもあれば参画が進みやすい。状況を確認したい。	当事者	協議会活性化の項目に入れる。
9	当事者家族参画の意義	当事者と家族の意見はそれぞれ違うということが都の見解として見えるとよい。	当事者	当事者家族が参画している状況や意義について新規設問を追加する。
10	地域移行についての取組	入所施設や精神科病棟から地域への移行は、これから大きな課題となるため、ぜひ聞きたい。個別給付件数(地域移行支援、地域定着支援、自立生活援助)も確認したい。	協議会	地域移行・地域生活支援で、新規項目を立てる。また、自立生活援助事業所数を一覧に加える。
11	地域生活支援拠点等へのコーディネーターの配置	整備状況に加え、コーディネーターの配置状況等について確認したい。	協議会	一覧に拠点コーディネーターの配置の有無を追加する。
12	基幹相談支援センター、地域生活支援拠点、自立支援協議会の関連づけ	厚生労働省が主催する全国ブロック会議では、三つの要素の連携を重視している。	全国 ブロック会 議 (※3)	協議会活性化の項目で国資料の趣旨に沿った設問を設ける。

※1 協議会活性化グループ

※2 当事者参画推進グループ

※3 令和6年度厚生労働省障害者地域生活支援体制整備事業「全国ブロック会議」